

多様な一人ひとりをよく見る

教育実習の「学び」を学校ボランティア活動につなぐ

現在、2年5名、3年11名(理工2名含む)、4年11名、合計27名が活動しています。

3年野崎ゆづきさんは、5月から伊達小学校で毎週火曜日午前中活動しています。野崎さんからは、一步踏み出すきっかけと少しの勇気を感じ取ることができます。友人や先輩の誘いや話から興味をもち、「学校ボランティアを語ろう会」に参加して活動内容を確認することができます。あとは、少しの思い切りかもしれません。



活動1日目は、観察から始まりました。



子どもたちとの出会いのあいさつです。



さっそく気になる子どもに声をかけました。

一步踏み出して、見えたもの

3年 野崎ゆづき

私は、今年の5月から学校ボランティアに参加しています。学校ボランティアの存在は2年生のときから知っていて興味はありましたが、参加している知人がいなかったこと、支援室まで行く勇気がなかったことから、実行に移すことはできませんでした。3年生になって、説明会に参加したことを機に「今しかない!」と思い、支援室へ行き、今に至ります。

実際に学校へ行ってみると「私は何をすればいいのだろう?」と戸惑いました。そして、「課題を持って、自分から動かなければいけない!」という気合いが入りました。

2回目の活動は「学習支援を通して積極的に児童と関わること」を課題にしました。授業前は先生に本時の内容確認をし、授業中は支援を必要とする児童を見つけ積極的に関わりました。結果的に、明確な課題を意識するだけで自然と自信が出てきて、明らかに1回目より動くことができたのです。そして何より、1回目より児童が近寄って来てくれました。そこで気づいたのですが、1回目は緊張と不安で顔が笑っていなかったのだと思います。子どもは大人の気持ちを読み取ると言いますが、本当にその通りだと実感しました。

学校に行くたびに、新たな発見と課題が明らかになっていきます。学校ボランティアは、学校・教師・子どもの実態を知ることに加えて、自分の実態を確認することができる場でもあると感じます。「楽しかった」「勉強になった」と思うだけでなく、ショックを受けるかもしれません。しかし、それによって「もっとこうしよう、ああしよう」と成長できる可能性もあります。学校ボランティアは、私にとって「自分の課題を発見できる、貴重な実践の場」となっています。

野崎さんは、6月に附属小学校での教育実習のため、一時中断します。

教育実習の体験から、附属小と伊達小の同じところと違うところを整理し、活動の課題がより焦点化しました。7月は、小学校が夏休みに入るために2回しかできませんでしたが、活動を再開しました。2学期が、楽しみです。

教育実習の「学び」を学校ボランティア活動に生かす

3年 野崎ゆづき

6月の20日間、附属小学校で教育実習を行いました。今までにないほどの実践的な学びができ、あつという間に感じてしまうほど充実した日々を送ることができました。

この20日間を振り返ると、附属小学校と伊達小学校の共通点・相違点に気がきます。まず、共通点は、子どもが元気にあいさつすること、学級ごとの雰囲気や子どもの様子が違うこと、子どもの理解度に差があること、各学級に支援が必要な子どもがいること、教師が約束やルールを守る指導を行うこと、などがあります。一方、相違点は、服装や授業開始・終了のあいさつの有無などでした。(下の欄につづく)



子ども同士でも声をかけあい学びあっています。



黒板をいっしょに見て課題を確認しあっています。

以上の点から、どちらの小学校においても、子ども自体にはあまり違いがないということに気がきます。どの学級にもそれぞれの色があり、様々な考え方をする子どもがいて、国語が得意な子ども、算数が苦手な子ども、自信がある子ども、発表が苦手な子どもなど、多様な子どもがいるということです。学校の方針や教師の教育方法が異なっても、子どもの個性はどの学校でも変わらず多様であるということです。

このことから、私は教育実習の学びを学校ボランティア活動に生かすため、以下のことを実践していきたいと思います。まず、多様性のある子どもたち一人ひとりをよく見て、支援が必要な子どもを見つけ、積極的にサポートすることです。もう一人の先生だという自覚をもち、子どもたちの既習内容を思い出させる働きかけを行い、子どもの「わかった！」が生まれる手助けをしたいです。次に、授業方法だけでなく、先生方の生活指導面の工夫も注意して見ることです。ほめる場面と叱る場面、どのようなことを約束事としているのかなど、自分の将来に向けて具体的な学級経営にも注目していきたいです。学校ボランティア活動の中身を充実させ、より深い学びにつなげていきたいです。

【問合せ先】 学校ボランティア支援室は、疑問、困りごと、要望、相談に応じます。

(理工107 e-mail: 齋藤幸男 ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp

二瓶洋允 hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp)

【相談時間】 月～金(9:00～16:30) あらかじめ、メール等で確認すると確実です。

【体験訪問】 水曜日は、保原小学校で全校『学び合い』を体験できます。